

三山雅集

下



三山雅集題辭



著鷹れつで羽乃國飽海郡の三岳を華藏世界
 の紫雲成駿サキトと安養淨刹れ徳池と模モ一補
 陀山頭の薰風とくくク靈妙祥瑞れ勝シカ際也
 と花山を高く峻ケハシキと佳カと世セ仙ありて
 とそよよと水ハ深く湛タシをれと美やせと
 龍ありとととと響ヒと三岳を神仙ハハ
 けれと峯有り能除仙乃陽臺あり驪龍を
 いづまが霧キハ大竜を桂社有り志シけあ
 けと玄奥密藏の寶地ありと世俗の語話
 有り顯ハるが先哲乃著述チヨと池チをり時ト哉

山下有り一人の驗者、河を靈岳乃草創の古
 三つや梵宮れ事物の衆オホキり、他邦遠境より
 流布せり、めんや多年れ願望怠らざる攸有り
 中上小俊秀乃書生ありて是を歎息し、螢
 雪の窓前に對して、取河れ決アハきそふより
 筆とるめ、湯山の峨たる、軸をみて、
 山ハ皇圖に遠く隔よりや、ソレも苦勞乃
 白、妙體固れ、くれあし、峯小句ひ谷茂とめて、
 春秋れ幽賞を、おれ、中比胤海僧正
 と、さこそん、き、台嶺の法燈、り、
 當山の
 住職と補と、れあ、を、れ煙景、詠ト

山よ、さ乃風光み吟、ト、多、未、歌多、り、あ、は、
 うの、くち桑門桃青行脚の折、り、杖と、後、川
 り、酒、ソク、鞋、を南谷小、ふ、め、く、月、み、嘯ウソム、さ、雨
 に、眠、り、て、乱、同、れ、奇、句、と、練、ふ、志、し、ま、ま、只
 の、り、海、青、二、傑、乃、遺、風、草、茂、藤、ナギ、松、と、の、り、
 きて、雅、韻、今、り、絶、少、ま、き、り、其、絶、少、ふ、吟、懷
 たり、古人、當時、れ、佳、作、所、に、み、書、交、て、一、帙、既
 り、り、か、ま、ぬ、嗚、呼、文、ニヒク、葩、ふ、は、ら、の、也

江陵後學北藤淳生 謹誌



金岡

阿谷

皇野

三

二

三山雅集卷下

羽黒本社

當社之所乃單創之雅古天皇勅宣羽黒山寂光寺
 八大寺建立置七十衆徒寄附由利庄内仙北等數
 郡之れり代々此帝王武將金玉成樹石成
 之造受成之小及危り如今乃官殿之度長十二
 年從四位下行道衛少將兼出羽守源朝臣取上義晃
 志願此仔細之門之再嘗之寛文年中

巖有院殿御朱印社願千五百石余當山先貫主
 天宥法中頂戴之是時より山麓乃繁榮日々
 新アラタより王侯士民の新アラタなり巖宮より本社ハ



西南小向々王塚れ鬼門ニ守護シ末祠ニ左布ノ聯ヲ
つゝ國家の疫氣ハ追伏セり故リ往詣リの老翁ハ四
時トわつゞど神威ハ高驗ナり事ハ感得ス

舊記ニ人王十二代景行天皇即位元年辛未六月陸
奥國大泉庄血原川上平向丘羽黑陵鎮坐同二十年庚寅
武内宿祢依勅崇北陸神祠時ニ由良嚴窟而天樂響ス
海陸宿祢敬異而欲至窟中時鹽土老翁忽然出
現問曰何故來此耶宿祢答曰依勅宣崇北陸神祠
奇哉天樂響音如何翁答曰聖嶺者鸕鷀草葺不
合尊鎮護之後ニ也震簾者玉依姬基瑞ニ皇湯也
良願者豐玉姬有鎮坐湖水旃ニ委伎樂ニ終而去ル

宿祢奏帝而創瑞ニ離ニ于時景行三十一辛卯六
月中五月崇神祠矣是号望納賀原之神トいハびテ詠
小ノ向ト々ト出見ニ尊妻豐玉姬結親ニ情ト
速臨產時豐玉姬甚慙ニ之ヲ乃以州裏ニ棄之海邊閉
海途往去矣故因此ニ以名兒曰彦波瀲武鸕鷀州葺不
合尊トいハびテ詠トハ乙女浦の海中
荅表れ瑞光等向々トいハびテ詠トハ乙女浦の海中
又彦火ト出見ニ尊始兄中ニ降命山幸海幸トイハびテ詠ト
彦火ト出見ニ尊憂ニ甚深則入海中ニ失履トイハびテ詠ト
ころろの釣トと得ニり且得ニ潮満瓊乃ト潮ト濁瓊還トイハびテ詠ト
小足ト通惱ト一終ト小東ト見ニ日本紀等トイハびテ詠ト

千滿珠寺の名ありて本ホ粗チ度ド我ガ不フ美メ歎カ

又説云玉依姫タマヨリヒメと云り是コレ別ワカ鶴ツル州ノ尊ミコト不フ合アハ号ナ此コノ業ノ

小コ一ヒト神カミ武帝ミケミコ乃ハ母ハハ神カミなりこの説イハレる男女オノメ此コノ邊ヘひの

み一ヒト事コト説イハレあり同ナニ一ヒト事コト歟

又説云伯禽ヒキトリ州ノ姫ヒメ命ミコトと云りこれ玉依姫タマヨリヒメ此コノ業ノ

説イハレる古コノ代ノ小コ縁ヰ起キ等ナリと云り

本朝ホノ年トシ代ノ記ニ曰ク推古ミチノ天皇ミケミコ元年ノ癸ミ世ノ出現イデ出羽ツル國ノ羽ノ

鳥トリ權チカラ現イデ稻倉イナクラ魂ミタマ神カミ也ナリ一ヒト記キ云ク倉クラ稻イナ魂ミタマ命ミコト也ナリこれ

日本ヨメ紀キ云ク依ヨ姫ヒメと云り伊弉イサ諾ノ冊ニ神カミのミ子コなり

或ナリ記キ云ク人ヒト王ミコ二十ニ三ノ代ノ崇ス峻シム天皇ミケミコ五年ノ壬ニ子ノ出イ現デ此コノ

作ツク羽ツル本ホ社ノのミ人ヒト王ミコと云り此コノ川カハにイ出イ現デ此コノ山ヤマと云り

事コトいハくハおハしタるコト能ス除ハ師シと云り此コノ山ヤマと云り

真マコト降ノ雨アメと云り此コノ年トシ中ノと云り倉クラ稻イナ魂ミタマ

稻倉イナクラ魂ミタマ大オホ向ムカ小コ異ヒと云り

武タケ江エ根ネ津ツ社ノ家イヘ木キ戸ド常トコ陽ヨウ考カウ云ク豊トヨ御ミ食ケ炊ヒ姫ヒメ朝アサ代ノ推ミチ古コ

癸ミ世ノ年トシ羽ツル黒クロ權チカラ現イデ降ノ雨アメと云り此コノ山ヤマと云り

五年ノ壬ニ子ノ奥ウチ列レと云り此コノ山ヤマと云り

湯ユ殿ノと云り出羽ツル國ノ飽アツ海シ郡ノと云り此コノ山ヤマと云り

魂ミタマ神カミ也ナリ每スベテ年トシ十二月ノ晦クハレ日ノ夜ヨ國ノ人ヒト廣ヒロ前ノと云り此コノ山ヤマと云り

乃ハ儀ノ具ノ成ナリ東ヒガシ西ニシと云り此コノ山ヤマと云り

東ヒガシ祇シ園ノ社ノ除ノ夜ノ近ノ江ノ丹ノ波ノのミ由ヨ因イン成ナリ分ノ割ノ御ノ神ノ事ノ

よお似ニしタるコト宇ウ賀カ魂ミタマ命ミコト

此コノ山ヤマと云り

神社ノ三ノ坐ノ下ノ社ノ大山ノ紙ノ中ノと云り此コノ山ヤマと云り

涼風やこれと月乃しぐら山 芭蕉
鳴鶴や折く雲を抱れゆく 路通
可成今渡るや 多勢羽黒山 惟然
五十間藤ふ成羽黒乃糸うね 桃隣
岩居れ鹿おがけくましくら山 又考

遥拜

らむ玉れ山おがめくあら玉や 調和
羽黒山弥勤とらうとあまうな 沾徳
涼しくや鳴ねよ寝と羽白山 不角
交りの菌や 飯氣れ入梅の籠 常陽
すらくところを源一 結れ必 園女

坊名よぶ羽黒しといひお撰 専吟
蝙蝠乃お玉得らうや 一角がし 貞佐
笑へおれ羽黒しと及や 梅 琴風
山をらん急月 雪をか竹家 等躬
朝山や清水よまてく 圃 古璉
一紙乃為よ袖しと 柙し 序令

又

すぐらぶのにお黒れとてす 嵐雪
鶴れ羽乃白に雲しと何る物と 秀和
花も山に四月八百とと一のま 介我
白ゆわやけしと霧の編しと 立永

岩葦れいしと繋る清山うら
山夕
先達乃鶴鶴をくく清水かれ
清流
月成団く雪れ日成くや峯の顔
百里
清境く廉束初白くやまいにれ
銀葉
清山れ雲えぬ人を梅もに
秋色

合

と所人れ道者ともくく山さく
無倫
為く法岩葦とくくく現くく
沾洲
実慮れ陰くくくくく
周竹
枯れ田くくく大藜れ穂あり
白鳳
大日乃光輝きくく
和英

ふれ瑞乃傍や羽黒の古所く
浦夕
ふ一本潜く電結威くく
立幸
福書く同者乃神く隠れをく
徑菊
仲下くくく松くくく
等國

拜闕當山舊記

木如繁穠凡くく神一終く
浮生
旅人れ若くや羽く後く
解桐
君とく具をく人師く
樽
湖十
梵天くをわくく唐れ滂来く
一鶴
面れ故や草の葉くく
羽黒山
千本
征代くく奥くく峯の雲乃峯
保枝

毒霧瘴嵐披鳥道 碧雲白日映仙宮

晴川漲雪不留汗 奇菓經霜又取窮

石老松寒華表古 偶看孤鶴入秋空

戒言鹿沼と悔ひ出さはんほくくさく

姫さくむ羽鳥海れむさくさく

さゆと氷れ傳りり荷系さく

穉丸れ小きと呼むは八りやゆ

何事のおもくと夏天れ午時乃夢

ゆくくやたやとお傳り言は事夷

花し咲山一さくく 傳れ 音

ゆり神れ傳れ伝るくく山はあり

梅苗帆く包ゆく道共くゆ

知子れさくや自然とほれ神の代

こえ乃旋上山つる小とる物者れ草

酒回くく菊乃と荷や乳はんや

恵れ山すい清羽鳥れおのくく

爰さくく奇別倫成有さくく羽鳥く山

甚深く崔れ切しくはゆやゆ

雪おろくく客信達乃清海りそ

昔今名れ何く松く草さくか

梵天れ蓮の實れゆく羽鳥く山

新苔さくや新妙物くくく

嵐夕

伽夕

柳舟

如嘯

風和

幽窓

利言

千風

羅陽

聞志

志説

窺原

聞習

倫鶻

倫幸

梅倫

左英

一非

茂伴

あらう時々量度遠くと兜巾會津の丸圓子
神田みししるれりくえく懸や稲出イダシ風 此紅
 足しなぬり神系イミく未敷蓮華 東水
 鶴首ツルやくまを粧ふやう門カド了枝
 感カぬれちししよきしちるのみ 柳也
ヤトウキ寄生カ花カ花カら子コ安ヤス乃ノ乳ニ有アる 武仙
トウワカ一ヒト年トシ草クサ花ハナ花ハナ葉ハりや神乃風 梨水
 梵天ハツテンく稲塚イナヅカらし十二郡 李山
 冥ミヤ加カ阿アれ居イるルし山ヤマ花ハナ花ハナ 其翠
 喚ウケ種タネれレ騰ト成チ階カらラやハけケ乃ノ正マサ山風
 ちらびやまらばハりリちチらラとト山ヤマ 薫堂

験者初山の例あり

白布シロフクロの尾ビシ花ハナけケらラしシ 朝アサ子コ音ネ 呂茄

茶禮古式

毎歲六月十日神あり於く別處代一山衆徒天下
 國家の約ありく神衆徒参り湯殿月山相
 三所乃神輿ミコ代本社ノ神ノ事ノ勅ノ行ノ年ノ々々
 宝タカラありハ御ミコ半ナ洗シにニびビ末スエ綱ツナくクのノ若ワカをを巡メるル
 一山衆徒ソノしシ儀ノ等ノ并ナ置キ武ム士シ一ヒト人ヒト故コト々々々々々々々々
 獅子頭本社シシノカビれレあアらラくク一ヒト曲マカををののままけけはは獅子頭シシノカビをを居イるル
 村ムラとと里サト乃ノ祿ロク宣ノののあありリををれれららしシぬぬままららしシああららふふ
 いい里サトよよ下シららしシくくああららしシたたしし神カミ告ツケるルたたれれををれれ告ツケるル任マカせ

後中一問答と云は書よ事一記し事り
 九月九日於藤流鏑馬乃祭禮あり上り事りし事り
 庄内領主より奉行人等牙直代ハ領主神前へ奉
 ありて取筆一筆摘第一本奉納せりし事り
 玉門くこれ神事の的免く淀川後田横山玉門
 松尾等乃數ヶ村より役事成出と事定例也

舊記云八幡太郎源我家攻撃仙北金澤之
 前後十箇年也然戰不利各敗北數度也或寛
 山之岩穴然別羽黑家佐属源氏方旒紋換除魔金剛
 二童子及向時送徒安退散
今時當山之修験且羽湯御
正射奉持りし事り

干時我家乃神恩報村奉納時天於末同八幡家後

於此神事不終也

十二月晦日夜有祭祀惡魔降伏五穀豐饒之神事也
 不當山祈福祕事故省略

七日由山より麓つり

折や山代いて羽れり
 芭蕉

凡心く様々合と形と
 其角

身運りし事り
 呂九

清寶お浸りなりぬ坂
羽州松山
 未覺

ぼくも大やぬさぬありぬ十二灯
米沢
 蟻穴

柳ももろり
本宮
 文鄰

湯山もろり
本宮
 兔角

山中者若くは綿花雪帽新名山蓮給

花乃極し二千坊の中心庄内大山市帘

糸代よ香い物なれんこれ乃落南枝

山鶴下野山形桃子

奈り小鳥も鳴く我ほまじく梅義

白ゆふ成るゆがりて巖く那 峯月

本社軌則

舊記曰人王四十二代文武天皇慶雲年中陸奥國
丘壠岡卷之間魔魅現出而逼衛國民千時於當社
廣前模鬼形為松炬二基而選二六験者令修行唯唯
之加持書畫向水惡之相也則家下志退散矣又四十八

元正天皇靈龜元年亦果公乃修行法是謂験
也之當時その遺法成用ひく毎身除却山禁乃
象院の門からく五穀豊饒惡魔降伏の約形あり
験者十二人左右列く某師乃十二大将代表
名帳此後師二人と日月光の二菩薩を推し験
者乃福以成止し毎年二人宛この書れ行法乃
修りあはる是と松聖しつと白鬼乃修りて童一人
鬼の面と符と白布衣と名せ内陣より出く是と
行り白鬼は乃移りて月山権現成遠く千中の
凶事八例外より移りて殿實物と庭より於て法
淨常此懸燈とく新中は鑑出りて大松の二基

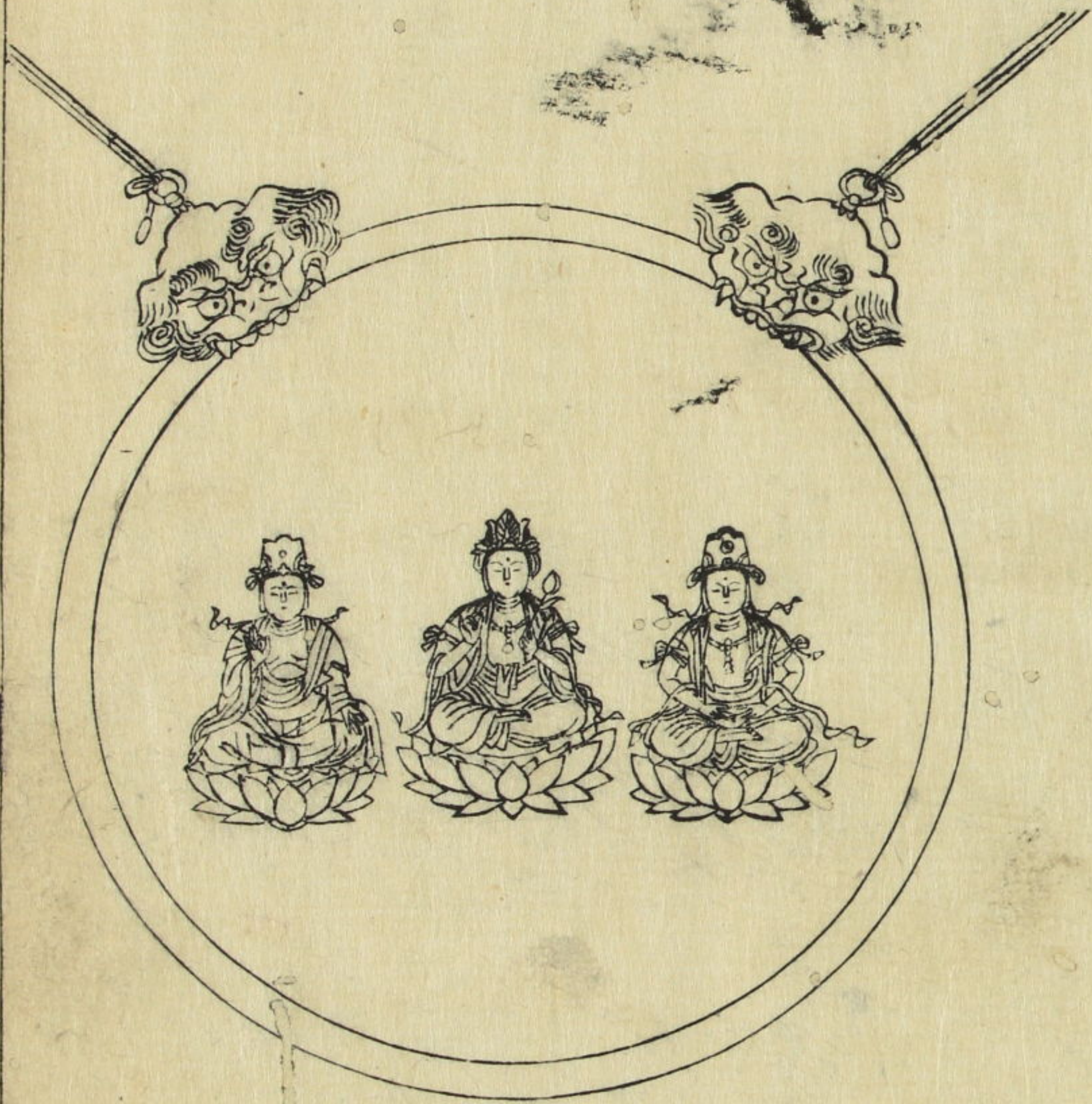
と他より見小福と大松の繩と分るる布とあり
て西方越の山とく編み新火と云ふ河唱の文曰月山鳥
海兩部大日天下泰平國土安穩と

祭傳曰分羽足熊野彦山と云ふ品彙修験と云ふ左
右章前後也日本西二十之箇列東二十之箇列勘辨
於年數之登所司山伏者羽足雅現一二三者熊野
指次四者彦山指現也と所司山伏文云彦山と本江乃
庭上成り門六十六品と云ふ門所也西亦四ヶ國
と熊野法と此地と定火跡と九ヶ國と彦山指と乃地
と東亦二ヶ國と羽足指現法守此地と定火跡と云
此乃儀式なり左内領の事なり

米錢乃實法成行多と二人の驛者是を收納
おれ行法と勸む是と修験出世権大僧師と名付け
松取と云ふ号と云ふ此方位位と云ふ右と云ふ途と云ふ
羽足熊野彦山と三部れ奉しと云ふ羽足此彦山佛
部本尊除陀熊野れ男の金剛本尊不動彦山
の男と云ふ蓮華初本尊觀音本社西殿熊野指現と
初代一宗と云ふより熊野の金乃男羽と云ふ胎の男あり
金胎部部と云ふ家と云ふ殿より福より熊野れ牛王の男あり
牛王寶印を稱し鳥兵衛熊野小用と云ふ事と云ふ
山故實れ守りて留れり是等れ毒酒の縁起と云ふ
より撮要卷一二耳

舊記曰人王百一代後小松院喜慶二年八月初定於
當山今修修行法華八講及開結二會于時為供養
於御平洗池ニイシテ受年ニイシテ卷而有音樂所謂ニイシテ樂長
保樂ニイシテ蘇香ニイシテ合春鶯轉ニイシテ樂長主納ニイシテ禮ニイシテ也
右大會欲為ニイシテ末代ニイシテ軌則ニイシテ故准ニイシテ妙曲ニイシテ十經ニイシテ而今寄附福
田料ニイシテ是謂ニイシテ十經田也ニイシテ今ニイシテ十經田ニイシテ北ニイシテ也ニイシテ平經田
小經田北經田ニイシテ之ニイシテ村ニイシテ羽ニイシテ之ニイシテ神領ニイシテ之ニイシテ外ニイシテ由利
仙北等神領ニイシテ之ニイシテ事ニイシテ同記ニイシテ之ニイシテ事ニイシテ仙北神田ニイシテ四百束
蓋田五百束幡屋二百束鮎川四百七十束今泉二百束如此等ニイシテ神領
之ニイシテ事ニイシテ當山司職乃家之ニイシテ往昔ニイシテ之ニイシテ數ニイシテ也ニイシテ
所謂別當職長吏職ニイシテ之ニイシテ山主ニイシテ之ニイシテ月ニイシテ一ニイシテ之ニイシテ諸勢ニイシテ執ニイシテ行ニイシテ職
之ニイシテ一ニイシテ世ニイシテ別ニイシテ行ニイシテ也ニイシテ本社乃健ニイシテ之ニイシテ山外ニイシテ禁ニイシテ定ニイシテ也ニイシテ
院主職ニイシテ司ニイシテ諸國ニイシテ院ニイシテ長ニイシテ補任ニイシテ大ニイシテ先ニイシテ達ニイシテ職ニイシテ之ニイシテ諸國ニイシテ亦ニイシテ在
乃修驗ニイシテ之ニイシテ檢ニイシテ勅ニイシテ學頭ニイシテ職ニイシテ之ニイシテ顯ニイシテ密ニイシテ傳ニイシテ灯ニイシテ乃ニイシテ之ニイシテ代ニイシテ也ニイシテ
官司職ニイシテ之ニイシテ大ニイシテ字ニイシテ之ニイシテ号ニイシテ之ニイシテ松ニイシテ必ニイシテ祿ニイシテ宣ニイシテ職ニイシテ之ニイシテ免ニイシテ行ニイシテ之ニイシテ附ニイシテ與
之ニイシテ免ニイシテ女ニイシテ別ニイシテ高ニイシテ職ニイシテ之ニイシテ松ニイシテ必ニイシテ乃ニイシテ巫ニイシテ女ニイシテ之ニイシテ司ニイシテ之ニイシテ神ニイシテ紀ニイシテ勅ニイシテ之ニイシテ此
家業也ニイシテ如此等ニイシテ乃ニイシテ職ニイシテ分ニイシテ繁ニイシテ多ニイシテ也ニイシテ之ニイシテ之ニイシテ後ニイシテ充ニイシテ滿ニイシテ之ニイシテ
之ニイシテ事ニイシテ之ニイシテ後ニイシテ念ニイシテ之ニイシテ記ニイシテ也ニイシテ之ニイシテ事ニイシテ之ニイシテ壹ニイシテ下ニイシテ之ニイシテ異ニイシテ倫ニイシテ行ニイシテ奉
之ニイシテ事ニイシテ之ニイシテ八ニイシテ十ニイシテ二ニイシテ代ニイシテ土ニイシテ御ニイシテ門ニイシテ院ニイシテ取ニイシテ元ニイシテ之ニイシテ己ニイシテ巳ニイシテ年ニイシテ大ニイシテ泉ニイシテ也ニイシテ即ニイシテ大
平ニイシテ之ニイシテ事ニイシテ之ニイシテ記ニイシテ也ニイシテ之ニイシテ事ニイシテ之ニイシテ東ニイシテ繼ニイシテ之ニイシテ見ニイシテ由ニイシテ
九十一代伏ニイシテ又ニイシテ院ニイシテ永ニイシテ仁ニイシテ五ニイシテ丁ニイシテ百ニイシテ年ニイシテ當ニイシテ山ニイシテ山ニイシテ伏ニイシテ謁ニイシテ執ニイシテ權ニイシテ平ニイシテ
貞ニイシテ時ニイシテ直ニイシテ訃ニイシテ之ニイシテ事ニイシテ之ニイシテ王ニイシテ代ニイシテ一ニイシテ覽ニイシテ等ニイシテ之ニイシテ詳ニイシテ也ニイシテ

本 社 眉 門



豎 八 尺 余

本地御正躰圖

附畧縁起

毎日本社に堂番成節も家流修験も小本社に
 諸儀と個ふ存り記と之中講念の
 詳に載ゆふと十月十一日より九一日の約
 堂番乃く名帳と改むる堂番又入界修行大業合
 と及しりある山々居住の者ふれ之役と勤む時
 姓名ふさしととと當山に官職と關くゆへ
 専勤し
 宝殿に外陣あり御所あり奉宿に後成納り乃
 右悉かり往昔に此所成納り子孫今相承
 の下は所門あり此所と成納り子孫今相承

〜寺の或記曰伊豆 菅根 諏訪 伊夜比子 月山
鳥海に上六所也

奉納初秋

吉作

〜寺の或記曰伊豆 菅根 諏訪 伊夜比子 月山

合

尚樹

〜寺の或記曰伊豆 菅根 諏訪 伊夜比子 月山

岫に雲里〜安れ おどりうれ 川扇

栄華の浪あかり〜 結衣たう那 節士

か〜るや 蔓乃果あ〜げれ〜かた 里谷

赤〜とあれ 一〜と 笠よみ 女

御年一花

本社に階下は深〜鎮は清浄なりふれ此中より
古鏡あり〜作り古傳曰人王四十二代文武帝大寶元
辛丑年七月詔命鑄銀鏡一萬八千面而奉納阿久谷
〜年流論此事作り〜にこれ此上流法と
あ〜り〜水面朱〜變〜して年成銘〜も不澄〜論事
畢て此處と論上作り〜右に鏡銘〜とあり
〜又これ〜奉納より

鐘樓

人五十九代後宇多院建治二丙子年八月廿七日鑄成
之鐘高八尺横指一五尺五寸厚七寸銘文三十一
行あり歴世〜磨滅〜して過半〜わ〜

馬山寂光寺火撞鐘者一年始等二十字あり
存在あり

舊記曰文永十一年十月從筑紫駛早馬、
若蒙古賊船到對馬合戦、又曰建治元年鎮西送蒙
古并高麗人等不入洛直來關東、此は將軍家
より馬山へ送られたり、山上より九頭竜王の光景
あり、酒田の漆、死行と云ふ、蒙古船、少残
海中より没し、浪西平安なり、これ謝徳、
穿し附せられたり、舊記に載り

陸奥安部村の時多し、梅州

庄内川尻 東灘

神として、鶴女

登山古徳傳 并名士

或記曰四十一代持統天皇朱鳥之己丑年四月八日夜行
者羽鳥より月山湯殿より、
杖桑雪山の一、
て佛水池より、
行者庚子

四十四代元正天皇若老六壬辰年八月八日行基菩薩
湯殿月山相、
一、
一、
授り

艱老年中開卷一法あり

五十二代嵯峨天皇弘仁十三年二月十三日傳為大師

御述作神道深秘錄曰一諸國曰見靈山雪化所

謂不老山 菅根山 筑前山 日光山 相三山以下

一記云五十一代平海天皇大同元年弘法大師湯殿山

春籠矣三し世年し世日湯殿權現鎮坐し日也と蓋下

蓋傳の神若日載しり江下しりし世年としり

泊殿奉祀此張年しせりしと今に此山と世年

よ三山奉詣乃と今に此山と世年

ハ化人行詣しりと道路の奇異と若日と

又曰大同四年己未年慈覺大師從下降國と山と

羽と高記曰費大師鳥羽黑院主止任矣と此山と

鳥海山再興あり又相三の藤と山王権現と初と

始と某師建立しり南滝山禪定寺と於と寂勝

會と執としりと相三の記と大師乃遺

約教多あり

或曰慈惠大師涉羽と山石橋と幽居矣と

當山舊記云七十四代鳥羽院永久二年大僧正

行尊來羽と而入と奉保安二年と世年復入と依と願

徳象議而州と創と學頭院室と号と初と學院止任と起と一と衆

个寂と上と行と下と考と師と奉と而已

此外西行法師文覺上人登山乃考と上と記と

東照宮

寛永年中一先貫主天宿師東殿一登山して天海
大僧正の高号しりり天の字は附典一多ひ天者
号と別家流大河園和成勅じその所天海より
一室の 孺子信心衣 一衣 雪峯筆屏風 一好 天海真筆
東照宮御名号 一幅 拜領之 正保二乙酉年於此所
東照宮初住持又建立社領百石奉旨之 法座以
毎月十七日別由衆徒於神前法樂勅之 毎歲卯月
中七日有祭祀候おあ衆徒職奉伴等出

東照宮の目
よみ

東水

目録のれは... 東月

阿久谷

本社より後より高門之修験入峯のそむかじり
秘より秘密湧くあり瀑布此中阿久谷
罪め玉のそ容いと貴くされり信行後逸と觀
面より生身のめ玉成拜感と事下今不慮乃
靈地なり

鶴いじと後れとありや後取のや 峯月
一足と行とありや 葛のけし 立宇
方便れ谷より登れ蟬乃より 梅露

鐘ヶ岡

とれうと南山乃大鐘濤成とくも田のわくわく名付
竹らぬや清濤谷しつるまもまもくおのり竹所

揚波山

滝乃経たたり一筋一義經奥列下向此河名御
汚穢なる事一安まくと弁ままじふまくと代詔辭代
り下山波一々るう一や傳ふ

海松れ名成山よ一節を八字洋 此紅

木一節と真とほるとんや花乃波 覽水

空歸

往昔びふらと太宇山萬納寺と号し一二百坊れは
かり能除太子は宗親也

昇天よりりり氏俗鑑第一一承嗣と故納宇子野と

しりこのゆ成跡より寺門乃礎堂社此庭今ふれ
又とよりふれ不電光迅速の時と神矢の根とく失
願れ小石階下ゆくとけくかり苟くと不可思議の奇
物なり又兒乃御墓并兒塚しつふあり荒波此兒
堂れ下と詳あり

喰摘れおくととれまれ根石 淳生

立ゆくとふれ根拾とん射平の花 支考

編して鬼成中るれ 照射 呂凡

矢落ためん道枯あり神あり 此紅

櫻付れ根とあり雪にふり 呂加

漆子村

本社北河津乃下ノ一畧記一教ノ一崇峻帝の尊
子初皇孫王子藤我馬子武崇峻帝推古帝即位
馬子武崇峻子放北河濱矣すわらひて而も平らな
よより漆子村と古来ノ傳傳り蜂蜂の二役とてふ
時々々ぬれ由しとて是れ

右從阿久谷河津子本社ノ且實方溪谷也

漆守れ子孫々雲々此あり所々な 東水

長畠頂うけく 三ノ部 呂加

とれくのも血脈々流 彦 徳 李山

兼仕屋敷

ひくく此屋敷を治しとてあり今も福蔭館屋敷
よより兼仕しとて一せ別行北戒法を待ら
清淨潔白のこゝを成若一本社用帳れわくとも兼
仕職度前々ぬらづけく清浄とて且暮れ給
仁清徳也成献とての役なり

御供所

二面大黒堂の後廟々あり比叡山よ中し傳授大師
福壽増長れ守護神々してけり成崇奉り事々
故々々山々々を例修成福々々を燈明役とて
下宿この堂々々して本社北常灯の号成守れ

と務くくし荒くしと當住侶大建之此志願成者
しつらに糸一畫棟金壇のしきにむりり再受より
寺因此來因是とし又者思合と

寂光寺山

正徳院此院は元よりと此山の羽黒山と此院
子して後現境因此樞要と傳へしりけきり
くく泉藏坊曼陀羅堂澤内坊なりしと寺地
るもより一後王子ととる文此院しとひ傳へ
芝道あり

山鷲法身無覺頂 一同遊此絶餘幸 禪光

松風滿耳花媚徑 只有幽禽占幾春

破戸道

此戸を村よりり此谷を成下つて山中の亡者
と送葬世所墓下りり人魔を成壞とる此の戸り
して破戸なり名ばちりりや歴世の形と墳墓
年々此春の草乃心形と流しむと松乃月形りり
つ世乃形りり中りりり紅法小僧成深りり
泣ぬき神此ゆき赤や赤尾花 紫片 庄内
塚ありり後乃測成水のぐえ 薰堂
古墳多是 少年人 東水

塚此松ありり世此中一宮乃中 惠曉 羽黒

柴燈護摩圖



未入堂の者フキゴレは昔より名はなしく素人素人のしりやまのま
吹越フキゴレへのくらす脇より荒はしはかきよけ乃の巻糸を
入峯の百末夜の入門より小紫小紫のちるおは鏡も是修
験乃秘傳なり除魔金剛乃二童子童子是より居りて行
者行者は護持護持のたぐひもやせん

いづれは一物なり 及び此 峯月
罪咎の巻揮くもや 乃かき露 千露
紫乃て相見れ奥乃茅の掃り 呂茹

吹越フキゴレ

峯中フキゴレ修行れ堂宇あり本その能除太子役行者不動の

壬子り是則天下安鎮國家豐饒の修奉殿し得たり
あり修験菴堂あり鶴ヶ岡當城主酒井忠實遣言
せられり往古その法坊弘後大生進修行の位に任り
しり以降四年二宿或十八宿舊記しりしり近里五
宿如今ハ四宿毎年四季に輪番不忘執行しり
正月五日より座主會印の從因至果順此言事し是を
しり執行月山へ事終り禁足の行法ありし修験と
法列湯殿事宿の乃者代川導と是を言事しり又
七月十八日より法國一泊此修験行人入寺儀式乃後
織同廿日於藤山伏附孫乃作は同廿四日より一宿
しり終り廿四日夕に此二の宿此に
紫灯護摩修りしり二の宿へ馳入積昔果徳此林
示りしり委不説く是と從果向因道の林峯しり
同よりしり玉の別ありしり是を連出言事此勤修しり
ゆりしり天正年中よりしり此然しり言事山へ驅出言事
乃言大史原しりしり言事生史泊しりしり言事
ありしり又此れ言事しり修験脱しり故例言事修験白袴
劔先腰布茶掛等しり皆修験行中の具也藤此修
験と大業入寺堂審此之位と遂位と先途此軌則
と此れ先權大信初しり昇り是と冬言事しりしり言事の
四部の峯先規しり法國散在れ山伏本山流言山
流羽流各自ら言事しり入寺せり結袈裟乃差別

先年嚴命... 本山ハ紫紋白...

及者入書... 迺是為二童子... 差別覺... 所謂心佛及家生... 則不若生死不若則自他平等... 身迺為除魔倚... 一本尊宗門之一關也... 笈酒限修驗密粹也

乃五位成行... 驗宗嗣法血脉... 伊蘭樹... 密嚴世界程多少... 孔雀明王咒傳去... 若干行者又乘雲

會覺

獨步

實傳

これ眉の細き源一と云ふ人 洲水

荒澤 附不動堂

坂下れを奥に宿あり新門とて少初遊より流れ
り洞ありてさうらうや宿りたり此方より少初
往諸此満系滝泉と灌ぐ六に根を成ありし時
秋夜の智力成このうく月山湯殿の登山成宿り
とて奥院に境内苔滑小く世を成宿りし日
移りて毫も成感と古松老杉葉平とてた
霖雨れをうら成宿りび車馬怪語に罵と離く唯
禽の妙音をと宿りのて庚申堂大日堂十王堂常行堂
千躰地藏堂明教此堂社とて

時秋秋水澄荒澤 茶松風風味濃 實傳

元亮攢眉歸去後 猶聞蓮社中鐘

次韵

秋來荒澤寂寥處 苔滑水清興味濃 海秀

萬丈澄心依石坐 社中聲接曉昏鐘

荒江 智象馬連れん成 水軒

紫花甲のこくしれ夕々山影のこくしれ寺居り

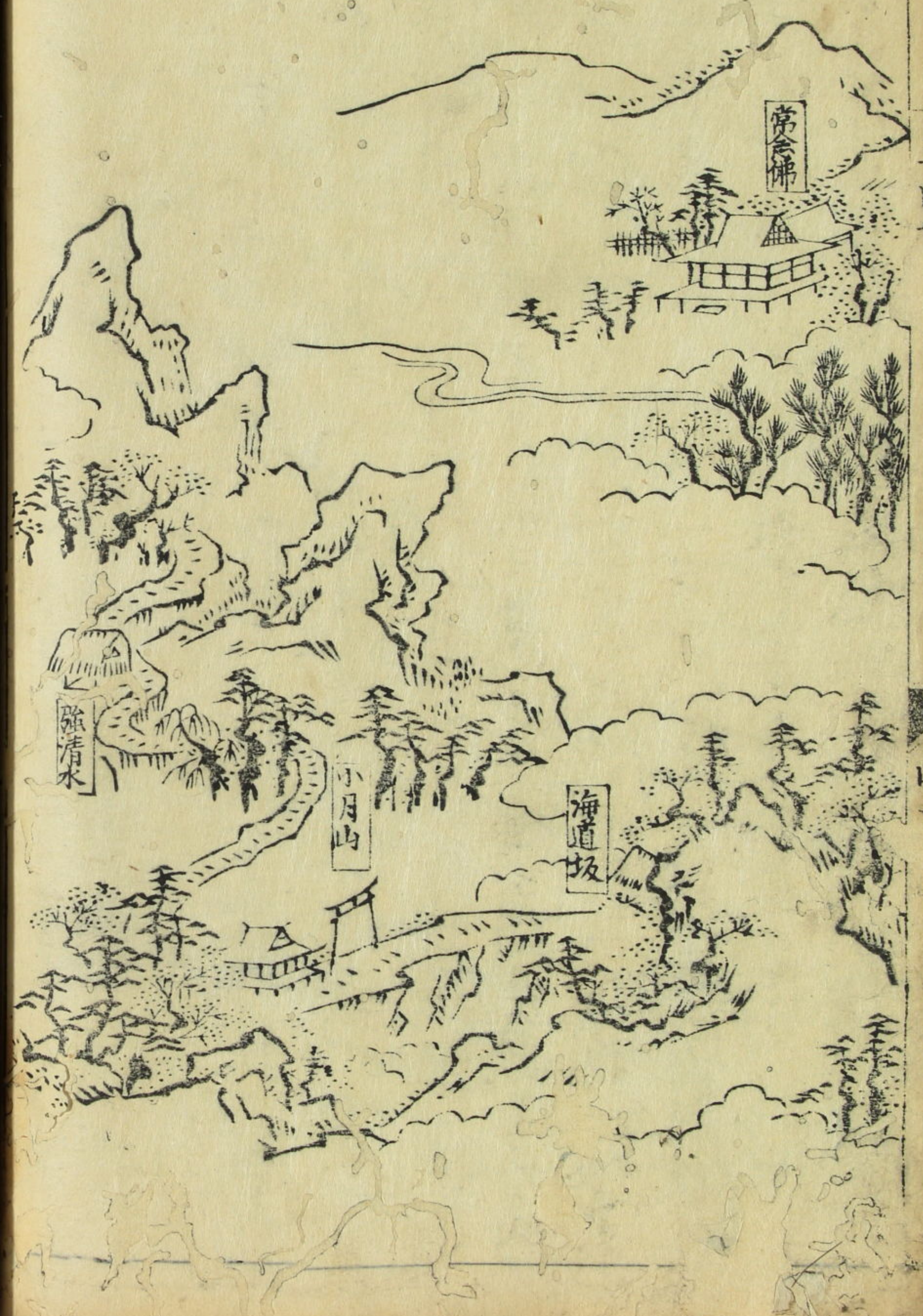
蒲朽く鰻ゆら 山れいと 團水

谷水成あびらん 浮生

ぬれ淨芭蕉の女 禁制 呂元



荒にれ冬と人めし干々まうお庄内紫守
 山わけく草々一松花野う米沢文志
 花言ど山名く木窟内らどし 梨水
ホロラン 承乃け彈指き小玉あくれ 武州
 後れもく餘る物あま落れさう 李山
 六乃根の罪障さるにゆ浴衣さう 里石
 蟻眠も昼れ佛に不射干の糸 吳柳
列駕 へりけり聲るうとじがり山北奥 茂伴
 音の朽せ成道れくもくさう 庭水アツミ
 朽しゆや種らほ入る水乃秋 此紅
 木推しと暇もやゆ小舟くま亡人



繪圖之廣州... 東誠

身之... 別世界... 松比... 呂茹

經塚杉

庚申堂此傍... 傳曰法師恒誦法華... 先氣美便往龍王宮... 命画非此來今為師說... 上勸善誠惡廣行利生... 獲生也即回六十... 及荒澤於經堂一字彫刻一千本塔... 設一四魚

終りて無為に後果成悟く大本迹二種に終
開く常在靈山此月宮より即なり

存續く印此心より此誕生會了枝

地藏堂

本寺の舊記より推古帝即位元癸丑年四月八日出
現と云り一經より平將門娘如藏尼此護念此
かりかりと傳ふ靈験得蓋此ありたり事數
信仰此人感得と傳ふあり修験入峯此に堂乃
後より拜と是別胎内の行はふとして男子の母此
肉より宿むると此胎内在元所謂母胎即堂也堂中男
子遍地藏もや此堂中より同山終此の傳ふあり

義興再興之

常火堂

古縁起曰能除太子大目如來と頂禮しをくむとて
登嶺の初合向ふして生身乃る像と拜したるあり
は身より火出く太子此膚よ燃け此煩悩苦此五毒
を消滅し多く火より昇天し其像は膚乃火ら
則宝珠よりあり此火成心も隨處く所作せしもの
よき此火の温泉の五味と涌出するは信を湯敷山と
名けしあり其時太子此味成あらむしきより
太子此殿別初上期の名別成此用ひ群生此

いんちあわねどる葉と漏くとも火 峯丹
おきとし人間より常火寺 莞兮
六月の布子や 清見寺火字り 風和
獨鉢清水
火水ともや竹もや火堂此傍よりあり清淨の
冷泉奇特をわくはか

野口

荒沢より出る徑より女人禁制法界此れあり右より
常念佛乃蓮社あり每皇壽如月觀音勢至の三
軀いつれも大佛形ふり元禄年中武陵此信者
是夜を納より聖之院先住侶澄心海佛遠
此の夜結ぬくはあり一字成道建一累世不
怠の称名水く宝刹乃びけしは成り傳ふ

好望月嶺待織河 乘興吟遊吟比丘 實傳

野口雖邊思不野 羽山舊是隆王州

山むらゝへの字救くすれり不角

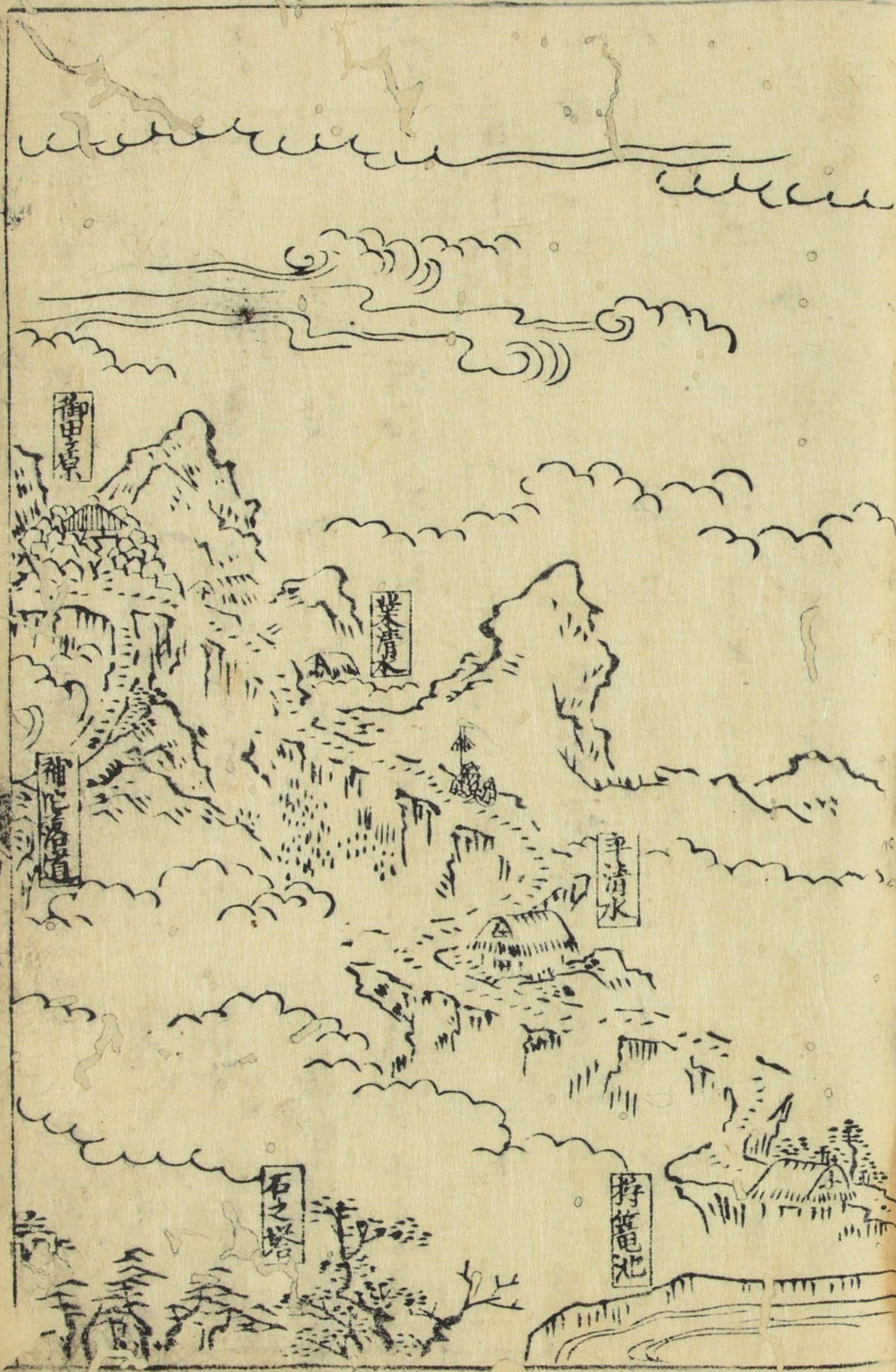
ほくささひ北小油断る 鳥野井

雲起る岫より蘭の障りし風 呂茹

七曲川前蟹ヶはを風森くしるす下成るすく移
向へ出る野徑ありけり所ありしりあま

物見山

念佛堂より南よありしりあま



をうららめい庄内の城門市野目下よあなわりのり
 この下は橋はとりあり谷は隔てけり森又ゆるこの
 毒らそのやう南滝山禪定寺とて二百坊は後領
 一はらう一急覺大師いふよむのく寔勝會成初見
 一がう穿この高才静安は中権頂の清室成道受
 一毎歳約ていふやう古傳よんく一り来迎にせとる
 一まゆりあり今よむのく聖衆來迎に成拜とてまゆり
 ありふれあの下は麝香は修行坂を坂とてさる水
 院すまらわたり一尾山名もあつらん山 呂茹
 一ひらき一縮まら成結てけりみ一 東水
 晴るはく一枚ありは田一那 李山

小月山とて宿とつり六月卯の夜然りこの宿は難行の中の極難處修と見より女人羅界なり

裏宿や清水乃此れ自然乃鶴里

郭と鉦タマがと向宿野川佐野其道

明星のまへけりて居てういふが峯月

そららにいひおれ松タマより火女呂茹

皇子石

それうゝ能除太子登嶺此初乃まがゝ魔魅行て女躰よりこれ障碍と見せり怨み太子が持あり事降伏しり

巫女羅界は初乃月山へ登りてむしりし小腰附の儀

くく一門乃靈石なりりりりり神子ももえはる

しり

強清氷

坂れた乃石間より湧出る冷水りり道者登山此れりり羅界の系店小屋成かけたり鄰氷清徹りり素剣とひりり往詣乃人りりすむ苟りり炎天の喘氣成治りて登山の脚眼りり狂りりりり是より廻成けりり得籠沈目れ下りり西石れ字りり記りり魔障りり又げりり地形りり変行りり始りり太子とれ沈りり得籠りり小りりりりり

舟りしや岸より蛇流石といへるあり歳往平橋
十とせむりいふあふ缺^{カケ}乃舟りこさ

鉾立新山天権現ふれわう守復^{コト}し^{コト}中^{コト}く^{コト}茂

林北冥北あり所謂障那退散辰主^{ツチノ}し^{コト}く^{コト}作^{コト}ん

雲水や洋^{コト}し^{コト}う^{コト}と^{コト}夏木立 其翠

汗^{コト}あ^{コト}く^{コト}い^{コト}と^{コト}乃^{コト}掃^{コト}除^{コト}る^{コト} 峯月

ら^{コト}く^{コト}と^{コト}鳴^{コト}く^{コト}鳥^{コト}や^{コト}菅^{コト}北^{コト} 久武

山吹^{コト}や^{コト}下^{コト}ゆ^{コト}水^{コト}ハ^{コト}脈^{コト}成^{コト}う^{コト}門^{コト} 東水

石之塔

ふれわう道よりた乃溪間北拜所なり多寶塔辰

助け小あり^{コト}し^{コト}ん^{コト}の^{コト}飛^{コト}會^{コト}し^{コト}と^{コト}し^{コト}知^{コト}か^{コト}ら^{コト}ん^{コト}や

莓北^{コト}ま^{コト}や^{コト}新^{コト}乃^{コト}玉^{コト}を^{コト}れ^{コト}石^{コト}北^{コト}塔^{コト} 呂丸

稲^{コト}葉^{コト}の^{コト}積^{コト}す^{コト}ぐ^{コト}や^{コト}石^{コト}乃^{コト}塔^{コト} 此紅

山^{コト}傍^{コト}や^{コト}袴^{コト}川^{コト}け^{コト}山^{コト}乃^{コト}く^{コト} 柳舟

平清^{ヒラ}あり 強清^{ヒラ}水^{コト}ヨリ一里余

木^{コト}乃^{コト}く^{コト}小屋^{コト}あり^{コト}け^{コト}あ^{コト}ま^{コト}く^{コト}糸^{コト}箱^{コト}の^{コト}道^{コト}え^{コト}馬^{コト}は^{コト}糸^{コト}
乃^{コト}は^{コト}是^{コト}より^{コト}奥^{コト}より^{コト}く^{コト}と^{コト}光^{コト}あり^{コト}玉^{コト}河^{コト}の^{コト}池^{コト}れ^{コト}鶴^{コト}を^{コト}
乃^{コト}は^{コト}か^{コト}ど^{コト}く^{コト}る^{コト}水^{コト}面^{コト}遙^{コト}く^{コト}く^{コト}く^{コト}く^{コト}

合^ガ清水^{コト} 平清^{ヒラ}ありヨリ一里余

小屋^{コト}あり^{コト}同^{コト}く^{コト}坂^{コト}北^{コト}あり^{コト}恩^{コト}繫^{コト}者^{コト}繫^{コト}糸^{コト}し^{コト}り^{コト}く^{コト}糸^{コト}の^{コト}
二十六童子の洞^{コト}像^{コト}を^{コト}始^{コト}つ^{コト}く^{コト}や^{コト}俗^{コト}より^{コト}大^{コト}け^{コト}る^{コト}に

小はれをいし習ふ父子の存恩くわくをいしあはれ
大しゆいし中しゆ意し通いしゆゆん致

大汗やゆく目く四季のあはれハ立宇

御田ヶ原 合法あり一里余

合法あり小笠原からいれ川原とさるる
小笠原塔と組く有無両縁と回向とあり
道老且過れ小屋並なり岩頭し
依れ安置しゆり故く依呼く弥陀ヶ原といふ
記し載る下は御田ヶ原より日本書紀曰天照太神在
於天上曰聞葦原中國有保食神宜爾日夜見尊就
候之月夜見尊受勅而降己千保食神許保食

神乃廻首嚮國則自口出飯く以其福種殖于天
狭田及長田又曰日神之御田有三處焉號曰天
平田天邑并田此皆良田くこれ所い依く
乃國社し御田極く式なれかこれの丘
山と神田成いれゆいあやいあく神
乃舊例れゆり事と感得しゆ

細流やあはれみんれ菅乃尔 且松

竹あはれ外楮れ牙もみさる 武仙

補陀洛道

この系より二十町く深谷へ下るる補陀洛
八ヶ原離れ小屋あり劔ヶ峯三學石高間原浄

布川石浪路石慈覺大師護廣壇三空荒神
 御年掛ねりしと拜所敷あふと透一記
 か補陀洛の本尊と彌陀藥師釈尊の三尊あり
 數十丈一尊と巖石との間にあり是外之尊は
 形あり震旦補陀山と釈音字彌陀峯金剛峯等
 あつたれ山々符節と合せしと補陀落迦此
 翻海嶋又云小白華西域記云有阻落迦南海有石天
 宮釈自在菩薩遊舎と淨土本縁經中も釈名は宿
 園成説りしと大士偈言我念無量劫在於絶嶋側念
 心時因縁常在補陀落迦上末也と云はれ又土宮と云
 たりと云はれ群類成變略しと云はれは此の
 益ありしと云はれ又十段の下の
 清瀆といふあり辨才天擁護乃比かりといふ清冷
 なる湖水は清浄と云収風徐りといふは微妙
 莊嚴の弘現れ形は感見と云ふと時なりと云はれ唐
 隆り言ふ波上芙蓉盡著花香舩蕩時漿渡輕沙珠林
 只在琉璃界半壁紅光見海霞賦と云はれ境を充
 て唯一語路成句と云はれと童蒙のいふと云
 々々乃云々人の形は云々人々の風録れと云はれ
 さらさらと云はれも唯一爲實成本ありと云はれ記と
 物なりや弘現れ舟と云はれと清浄の淨土と云はれ
 雲々の霧なりと云はれと云はれと云はれと云はれ

月神此月弓神是也又月夜見尊月讀尊皆是同
躰異名也一書曰伊弉諾尊右手持白銅鏡則有化
出之神是謂月弓尊實性明麗故使照臨天地
此說月山來由的當矣

延喜式神名帳月山大物忌祭料福千束又曰禁中名

神祭二百八十五座内出羽國二座飽海郡月山神社名神

大物忌名神又曰飽海郡三座月山神社名神大物忌神

社名神小物忌神社名神是等乃總成考往音

出羽北宗社八月山名海羽名兔作後名海山

大物忌神社号弓弓弓弓弓弓月山月弓神

山縁日月羽里山縁日月世ハ休所ハ木午ハ火也二山

神縁相生之社後神也

之鳥之出羽北地之入之月山鳥海乃兩嶽國中

之奇峯截然之之此立之り而山の祭祀年中

事之役優波女塞之之覺大師乃遺風今之草履

之符令之之分厘之之古傳之月山鳥

海内所大権現之之唱之之一二之あり中其

度之小之舊例年之小廢之

暮禮山月山寺之之所以之夜陰之之神社

之尊來迎乃感應之之貴之之礼拜

本地右來迎壇之之識之之行基之

秘言秘記曰補陀落無量壽佛放金色光照山林十方
世界為淨土山巔阿彌陀如來濟渡苦界教主之身圓滿
覺王也くくけく此如母ら六八乃悲形辰後一苦
輪界乃象生辰度服とんと鎮く一眸とめく一指を
弾くての所深山幽谷小くこれ利益辰旅一理即但
忘乃頂く究竟圓滿乃來迎と現く久く朝雲露辰
埋くく入の岫く鮮くくくくくくく偏くく雲俗と
離れくく一報と辰感と嵩岳岳松石南をわくくく
他山れ生植くくくくく雷くくくくくくくくく
く天辰告わくくくくく一又余のくくく
四季れ連辰月乃都くくくくくくくくくくく
山一名犂牛山くくくく山の形牛其横
たくくくくく似く四時雪消果と班毛と帯るくくく
くくく牛ヶ首しく辰く亦又をくくくく名なり
羽黒別為職入院経目れくくく山山法室くくく帳
并八股鹿角五股鹿角以上一頭分とくくく是くく代
之故實也

はた山れまの白宮くくく入くく人乃行くくくく
たれ奇くく聖徳太子の法は録しと傳くくく一能除師登
嶺くくく辰師せれ睦くくくかくくくくくくくく
はくく酒田小聖法寺と長くくく蘭舎ありくくく
此くく太子乃れくくくくく博識れ考辰給のく



十三間

志洋

三山下

五十七

神岳雲高千萬層 天邊望斷意兢々 琴吾

野禽一囀松杉暝 彷彿更疑佛法僧

月山木飯中れ祓り明江志交

ぶつり人や月落り内山乃音今九藤

粟嵐の子れあまよそふけはもな今白也

蟬の聲下りて端ゆくや下らうれ米沢朝三

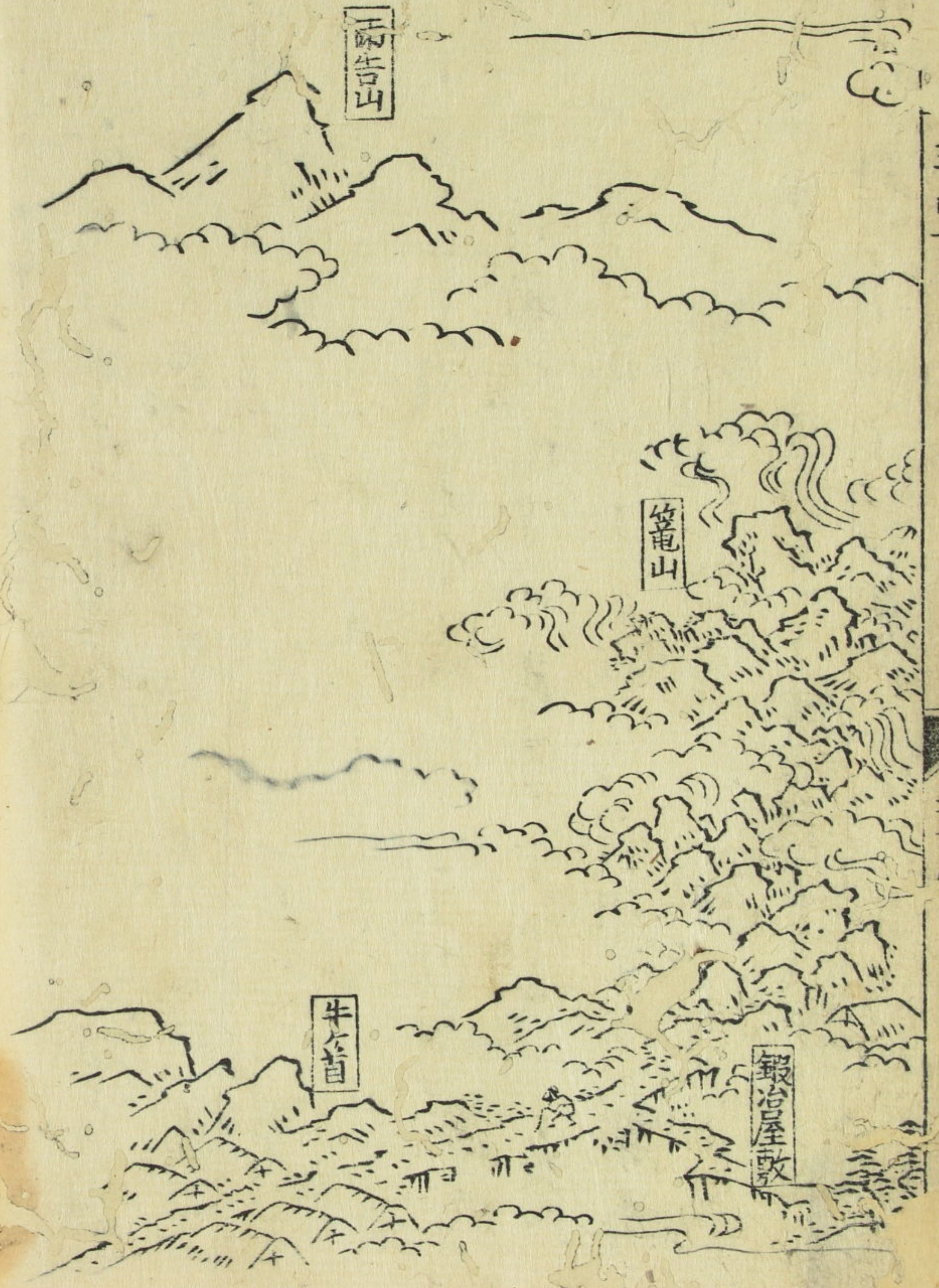
神鳴れ若らと里りあり若々の月 峰月

拾得の汗やいれらん月乃山 了枝

夕あけハ角ハッの扉を枕せよ 東水

あゝれ紐繫れあやや 雪れ山 東河

月フイとせと九フイ頼月乃凡 居志



月夜に必る

志田心

月北山は雲を帯りて心よりけし 此景乃雲

月乃山麓よりやうき音乃海 吉治

雪降るふお根より月山の山 安心

月山石室よりさるりく之吟

雷成ともくなく鳴く小屋の白 風水

行飯ヤハラ乃兼無原乃庵 呂銘

白溪北風成まうけり月越て 梨水

雨若山

月より西北より南門より又西の孤雲なり天氣朝

より雨の跡よりさるりく之吟

山の色朦朧として遠逝して又雨落
ちてしるり

早し女しるる鳥乃乃
東洞
裏柿ら鶴しりる
紀の音 琴吾

鍛冶屋舗

ひとり一人此鍛冶師
此重しあしりし
小月山とさりなり今せし
鉄鋪吹草年
終る石れ形乃彷彿
ひし中ち月のお輝みふれや
参り母領主
此紅

し料乃乃膚いさ
宿月也 横筋の
稲妻也 相捷この
此紅
李山

菴山

繁石成組
かきこころ小等一
百年州生
かりし此遠か

結しけく石り
あま涼し
後れ目し
東雪
山風

牛ヶ首

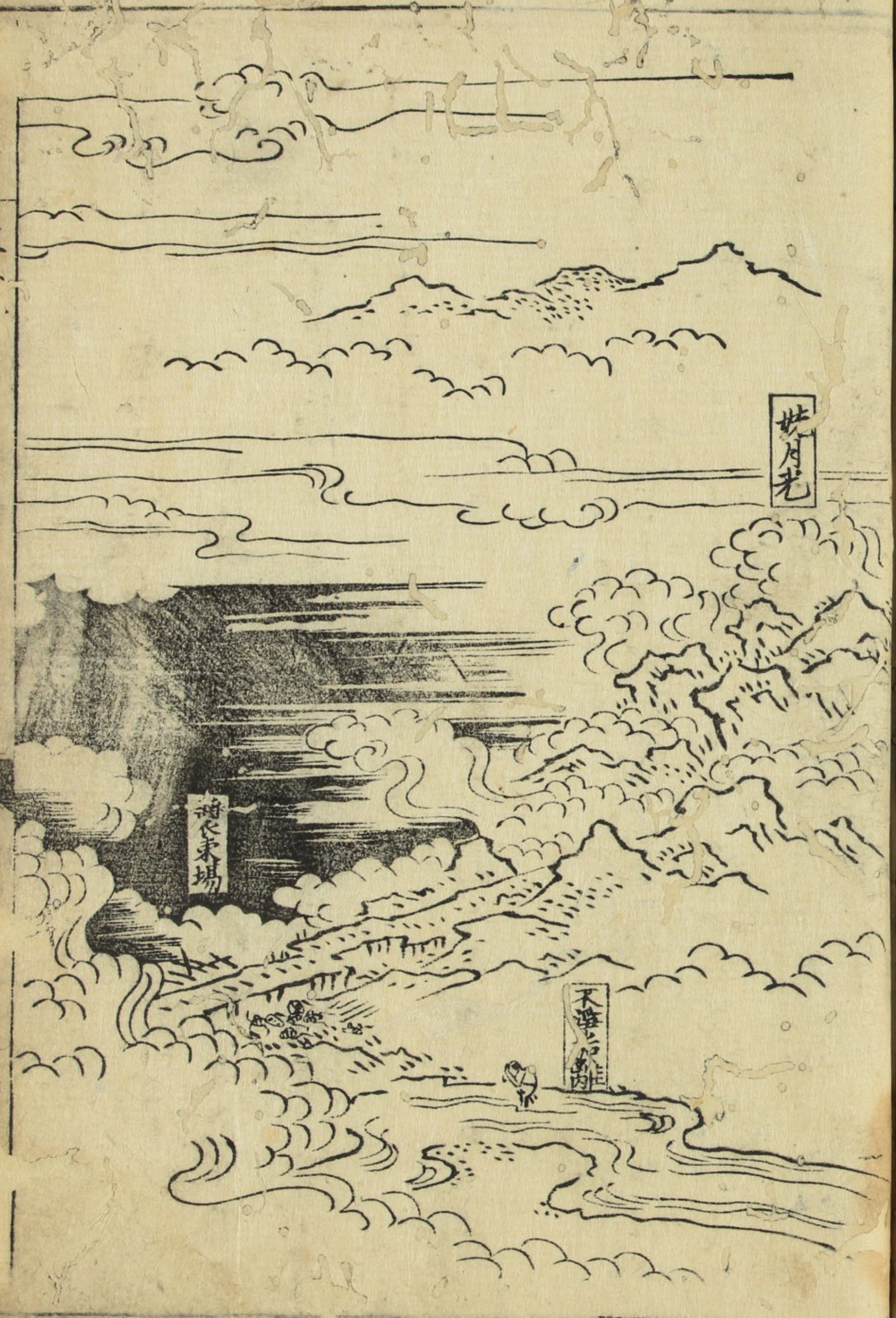
牛ヶ首と鼻穴の形とがなまありと牧童乃
 の繩通しとる海にのぼる出縁の形とるこの
 和の羽黒岩根はあふり道者乃洞と小座
 けゆるを往古より此定例なり

牛ヶ首やまゝいそで羽の末宝守 天立

姥月光

地藏菩薩塔の洞像とみよふ六道教化の大神奉向乃
 所る成利益一とて神のありはしとるなりと
 途河これとての首はさくさく

一世界かたの警水とては子月とては 浮生



切たかり清志大杖しもろいよく正にかんく後を
凡右乃叢中亦住請此萬人向此誓し修むら
禿しむ杖と打捨しむら年くか修りし悟と孤茶
頂ふ成ん奉修らぶし

菱山成ふまろくえせよひい際 沾洲

合向

水合向世合向とくも由はなりを成るるくみ水とく
秘水あり右縁起曰昔能除師大日尊成拜し
方んしとく深谷れ十巖と清た光景輝く草蔬
芳しとくむとらやしとく成るるかけるた来迎の
容感渡行し深しとくも成るる無跡此神跡

おせんし下向しとくへ嶮廻り修むらりしとく
いゆくとくかろうりしとく光明輝く瑞雲と映しとく
脚下とくしとく危しとくしてその修むらりし
神し修むらりしとく合向しとくして修むらりし
奉し修むらりしの秘事なりしとく湯殿権現とく
とく修むらりしとく今世とく来迎の辰とく刻限なり

足どり乃世人合向也 康のら由 常陽

鋤山

夢いし修數峯 霜成侵せむら田及れとく若使
雲動しとく農客の好しとく人同し満へしとく賦
等しとく八獄れ中しとくか修呵責れ修むらりしとく

段谷化為神一段是為雷神一段是為大山祇五段八段
俱化為山祇

本地大日遍照如來也梵謂毘盧遮那

蓋傳傳曰乙丑年乙丑日法身大日聖跡和光出羽國大
梵字川水上五味藥湯源置居湯殿權現顯給日也

号湯殿山日月寺月山一奥院而三光先照之密場也
故湯殿祝言文出羽國海燕之庄玉川上金銀瑠璃之地

奥院垂跡和光給

一名惠比山一唱一則和光先哲の名所集載あり

了しい歩く成運へ侍る奉月とかがりていけ

急ちりいゆるよりかたけゆるる心懐意慕渴

仰於佛のあ文可思可議符現靈降る甚深秘藏

言語より出とへりしははた小抄い付れは

ととと罪にそり其誓言小か

半信も五色に幣帛幾世幾年あれを

おれん谷成理の嶺より覆へり又腰梵天と

の行者唯乃高の幣より長一尺二寸十二月將十二神

准ふと表休天此七曜九曜二十八宿等ありあ

得て空冠等河殿行者此秘事秘物

故不記

往詣の街願あしけ世に

人乃情實あらし雲を

湯殿山不滅の絲凡 暮らかり 三千風
山を平海しん成おむ人の聲 桃隣
後物として世成忘れり奥の院 曾良
新踏し残り 汗る山本共平 風水

送拜

佛鳥瓜の住鳥瓜 浦づる成 念れ 山 岫月

はら水ナミをりのを百千ナミより鳴がらんを
いあらしと羽ナミの鳥阿し口あくとしそら
沢谷ツクナミの山踏まはありさ浦い久しこれ梵
天成ナミやりしあしこの帝教の地は力
足してかしの木れ住成月山の劍ナミの

て流汗の何ら流し色欲の多しむと
むす文字まじし心橋移し大日如來の
光成うけし

白形れ天窓千らり 湯殿行 調和
雲形して海草後まじり 夏氷 芥我

霊場の温泉と御ナミ閑ナミ伽ナミしそり
送ナミ磐ナミ湯ナミ灌ナミ佛ナミ 浮生

夏瘦れ療治しづらわし 湯殿山 浦夕
雲旁ナミより満られしより古後ナミとナミ好 竹六
梵天と今ハ散りん 響乃奥 序令
他人こそし山ハ薄氷 親れ膝 節士

過しあらしの愚又このれは山神徳成世先物
り所しあらしの記おらん中ぐと緑樹の影よりと志
なく碧港の底よりと深しと年比れ結ぶ
侍れど世事にいし侍成るをせせと神恩哉
報せんを小永くお徳成寄附せし史藤の
と吟しては山成遠祥しを侍 常州小河

稲れ袖に持ちけり結けり山の山 全泉氏 達長

ふれ外供因一反寄附し江戸萱場町神原
寺を侍成るを忠之侍中根山三郎酒井所成り
又一反下総國香取郡福田村加瀬理左衛門河
色村及川小三郎同苗七郎 海門常列水戸

領茶谷河原江源立成侍のい萱場町所海色原
右供因寄附報謝れ成り永く羽成山よ於
三山法縁日毎月三度宛御信成りけり
施主子孫繁昌如意満足乃祈彩ふ志勤約

亡人 ナキ 一 カキ 年 ワカ 州 ヤ 流 ハ 峰 月
窓成山 ア 袖 乃 浦 了 枝
梵天 と 流 系 の 成 雄 王
目小罪成 武 山
慈 を 小 を 持 る 其 翠
罪科 の 禊 り 山 風

感波く生縮しれく一忘れ山柳也

松此実の入そひよりけ袖水武州高尾秀永

七息ま心山ては布一雲りん草東亦

神控そ男小かりて思れや南久武母

目徳く一人目く人こい乃山桂奇

夏瘦や身とあり見ぬ急乃山一非

何差所うたせれ友乃ユカク素石

冬水おきく躑躅む心乃此紅

く續り乃山氷室の里に夢く呂船

富山此往詣乃七にあり照黒 岩根沢 笈沢

本道寺 臂抄 注連寺 大日坊

飛石もこの石りしるく志津村く中く笈沢下

水又高清水しつ小水は経く本道寺へ下向

水乃 清川根鳥川 懺悔ねり乃水乃 岩根

注連寺へ下向

乃乃山の水室に横道に下りく臂抄阿畔院

へ此向 又清沢昔小水乃乃く注連寺大日坊亦

へり乃乃大綱に乃乃

三山成出れ乃懐ホ乃 雲れ乃子 風水

乃乃小雪の飛石は乃乃乃道ヶ川 等柳

乃乃屋に月人た乃乃巴乃乃今 等般

琴し乃乃乃乃人あ乃乃懺悔乃 東水

感涙乃袖と揮くはけしりる 梅州

阿鍔畔此二字を字の雪月^{江戸} 栄賢

よよ振る衣の玉や^江言はよめて 栄順

家^江に^六菜^グ菓^ミより^一深^クな^ク杖^ノ多^ク 李山

道^山の^足只^ひの^りき

に^づく^し盤^涼一^こい^乃の^支考

い^も由^り帰^山と^く河^雨の^宗因

文^成と^筆と^只と^一抛^ら筆^満て^燭成^忘下^り

移^一三^山靈^用の^貴成^にも^余の^高跡^放矣

午^羊の^眼少^ても^もと^も語^一情^人事^神意

夫^もの^中短^方法^後悔^情れ^ど愚^生の^早は^はえ^と

も^形と^のは^のり^佛神^擁護^の時^も然^り

又^ハ具^眼高^標れ^其も^可不^可と^しに^運善

却^惡の^小路^リし^人と^雨と

跋

集^集し^名づ^く大^成ら^いて^しれ^まし^らの^山

乃^あら^たれ^るや^一ら^をう^とた^寺々^あら^うと^あら^う

書^三所^一せ^しや^りは^れ事^とは^して^此所^のあ

任^あら^げい^よく^たく^も成^れも^人の^信され

い^ふか^らい^ん成^れも^あら^うし^るあ^らり

乃^名不^然や^しし^らか^らの^成と^あら^うや^何や^し

く^はあ^らた^らは^らは^らあ^らう^とあ^らう^と

桑門何ぐあは人のけくしやまふふ及古よ
中よりんあははわんくふはくくわあまはくわくわ
まらあまらくくはあまらくくはあまらくくはあまら

謝元 水村氏

急れ山小ののきりしからく門のくくくくくくくくくく
後

室永龍集庚寅年中冬下旬

癸卯

羽黒験者文殊院

呂茹

選述

荒沢野納

東水

校正

銀唐幽客

浮生

